

実践例

愛知県 豊川市立御津^{みと}中学校

夢への“協走”力をつける！ 「新研究」を活用した御津中学校の挑戦

愛知県南東部豊川市にある同校は、昭和22年に開校。豊川市御津町は、万葉の時代には伊勢と東三河を結ぶ海路の要衝として、江戸時代には東三河の年貢米の積み出し港として重要な役割を担っていました。南に三河湾が広がる町内には、法住寺の千手観音像をはじめ各地に国指定の重要文化財や、史跡、古文書など多くの文化財が遺されています。



体育館の壁面には「光る海 MITO」のマーク。御津町の「津」は「港」を表しています。

お話をいただいた先生方



峯村邦泰 校長先生



酒井玲奈 先生
(保健体育、学級担任)



鈴木まなみ 先生
(国語、学級担任)



鈴木隆仁 先生
(理科、学級担任)



大林義宏 先生
(数学、学年副主任)



野沢聡 先生
(数学、学年主任)

「新研究」を選んだ決め手は 指導しやすさと生徒の使いやすさ、 両方が実現できたこと

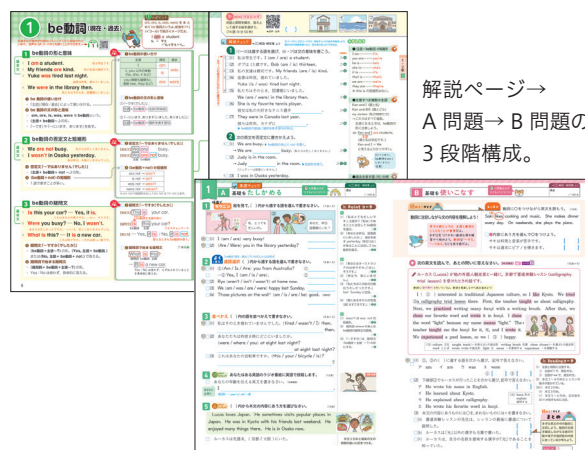
本校では、高校入試対策に2年生の後期から本格的に取り組む方針のもとで教材を検討しました。「新研究」を選んだ理由は、新学社発行の実力テストを実施しており、教材も同じ新学社のものにそろえることで、出題範囲や内容に一貫性を持たせられるため、生徒がテスト範囲の勉強や振り返りを行いやすいところが大きな魅力でした。教員も指導計画が立てやすい利点もありました。

また、教材の構成がレベル別^{*1}になっているのも取り組みやすいポイントのひとつです。学年全体としては「ここまでやろう」という共通のラインを設定しますが、学習の到達度によって、得意な生徒はさらに応用的なレベルまで進めますし、苦手な生徒は基礎を固めるために時間を使うことができます。そのように、生徒自身のペースに合わせた学習を選択できるのが、生徒の意欲の維持や主体性の育成にもつながると考えました。

さらに、「新研究」には、本冊に対応したデジタルドリルが付いていて、生徒それぞれがコンテンツを選択して取り組める点も魅力です。生徒の学習習慣の定着には、やはり「使いやすいかどうか」という視点は非常に大事だと思っています。

私たち教師にとって心配なのは、生徒が一生懸命取り組んでも結果が出ず、やる気を失くしてしまうことです。生徒には「コツコツがんばったことは、こんなに結果として現れるんだ」という感覚を味わってほしいです。

*1 新研究1単元の構成



解説ページ→
A問題→B問題の
3段階構成。

キーワードは「継続」と「徹底」 御津中学校流「新研究」活用法とは

学習計画表で「学び見える化」

本校では、定期テスト期間や長期休暇を除いて、「新研究」をベースに「1日1教科1単元」を基本とした学習計画表^{*2}を作成し、生徒と共有しています。生徒は毎日その計画表に書かれた単元に取り組み、提出することを課題にしています。

土日以外の平日は、これを毎日続けることが、生徒の入試対策のベースになっています。

ただし、この計画表はあくまで基本です。習い事などで多忙な生徒もいるので、生徒によっては1日1単元というペースを離れ、自分の予定に合わせて前もって取り組んでいる場合もあります。「この締め切りに遅れないようにすればよい」ということです。進め方は、生徒の裁量に任せ、無理のないペースで学習に取り組める工夫をしています。

2月	予定	国語	社会	数学	理科	英語	チェック
1 土							
2 日							
3 月						単元13 理科12	
4 火		単元15				英語13	
5 水			単元16			国語15	
6 木				単元13		社会16	
7 金					単元13	数学13	
8 土							
9 日							
10 月							理科13
11 火							
12 水							
13 木							
14 金							
15 土							
16 日							
17 月	学年末テスト①						
18 火	学年末テスト②					単元14	
19 水		単元16				英語14	
20 木			単元17			国語16	
21 金				単元14		社会17	
22 土							
23 日							
24 月							
25 火					単元14	数学14	
26 水						単元15 理科14	
27 木		単元17				英語15	
28 金			単元18			国語17	

学年末テストの勉強をしよう！

○新研究の取り組み方○
 (1)A問題まで取り組む。未付する。
 (2)B問題をみて、できそうなら取り組んでみる。
 (3)デジタルコンテンツで復習する。
 できるところはどんどん進めて、自分のペースでコツコツ取り組もう！

* 2 御津中学校の「学習計画表」

「1日1教科1単元」を基本とした学習計画表を作成。月末に次の月の予定表を生徒に配布。

「毎日提出、毎日確認」を徹底

生徒は登校してすぐ「新研究」を提出します。それを教員が確認^{*3}して、できていない箇所や、やり残しがあれば再提出を促し、「取りこぼしゼロ」を目指しています。生徒の状況に合わせて、休んでいて提出できなかった生徒には、次の登校時にまとめて提出してもらう場合もあります。

2年生の間は、厳しく指導するというよりも、3年生から本格化する受験勉強に向けての土台づくり、学習習慣づくりを主眼に置いています。「好きな教科は自主的に取り組むけれど、苦手な教科はなかなか取り組めない」といった状態で3年生に進級すると、あとが大変になります。毎日コツコツ進めることで学習を継続する習慣をつけてもらい、受験勉強にスムーズに入っていけるように心がけています。

* 3 生徒の提出状況一覧

A問題まで実施した生徒には「A」、B問題まで実施した生徒には「B」と記録。どこまで取り組むかは、生徒それぞれの目標に応じて設定。

「みんなでやる」雰囲気づくり

先ほど「継続」の話が出ましたが、やはり大切なのは「みんながちゃんと続けている」という空気を教室全体でつくっていくことだと思います。

受験は個人戦のようでいて、実はクラス全体で取り組む団体戦でもあります。全員が少しずつ努力を積み重ねているという雰囲気があると、お互いに刺激になりますし、自然と「自分もやろう」という気持ちが育っていきます。自分のがんばりがクラスメイトの励みにもなる。そんな空気づくりを意識しながら、日々の学習を進めています。

2周目からデジタルドリルを活用

「新研究」を2年生の後半から使い始めると、3年生に上がるころには1・2年生の範囲が終了します。2周目以降の使い方は生徒に任せていますが、学校としては次の段階で「新研究」付属のデジタルドリル^{*4}を活用していこうと考えています。デジタルドリルは、「新研究」の単元ごとに問題が構成されているので、出題範囲の設定がしやすいですし、単元ごとに3つのレベルの問題が用意されているので、基礎定着から応用力育成まで、生徒の状況に合わせて使えるのでありがたいです。



*4 デジタルドリル(理科)

テスト直前でもデジタルを活用

実力テストが近づくと、生徒は出題内容表^{*5}を確認しながらテスト勉強を進めます。内容表には、予習に使えるデジタルコンテンツ(「さくさくQ」)が付いているので、それを活用してテスト勉強をするように指導しています。生徒の様子を見ていると、問題をクイズ形式で出し合ったり、「ここは何とい

うの」などとたずね合ったりすることで、お互いに刺激を受けながら楽しく復習できているようです。デジタル教材については、むしろ生徒たちの方がよくわかっていて、「こうすると便利だよ」といった工夫もどんどん取り入れてくれています。

出題のポイント		テストの前にデジタルドリルに取り組もう!
出題内容とポイント(テスト前に学習し、理解できたら「」にチェックをしよう)		メモ
1A 聞き取り問題	☐ 話の内容の正しい聞き取り	
1B 表現に関する問題	☐ 適切な敬語表現 ☐ インタビューの工夫	
2 漢字の読み書き	☐ 正しい漢字の書き ☐ 正しい漢字の読み	
3 文法(活用する自立語)	☐ 動詞の活用 ☐ 動詞の活用形 ☐ 形容詞・形容動詞	
4 文学的文章の読解	☐ 登場人物の心情 ☐ 場面・情景の理解 ☐ 表現の特徴	
5 説明的文章の読解	☐ 適切な接頭語 ☐ 筆者の考えの理解	
6 古文の読解	☐ 歴史的事実 ☐ 主語(動作主) ☐ 古文の内容の理解	
1 世界地理	☐ 時空のしくみ ☐ 世界各地の産業・生活のようす	
2 中国・四国地方	☐ 中国・四国地方の気候・産業・交通	
3 近畿地方	☐ 近畿地方の自然・産業 ☐ 近畿地方の各府県の特徴	
4 古代〜中世	☐ 古代〜中世の政治・文化・社会のようす	
5 ヨーロッパの歴史と文化	☐ ヨーロッパ人の世界観 ☐ 織田信長と豊臣秀吉に関するできごと	
6A 産業の発達と幕府政治	☐ 江戸時代の政治・文化	
6B ヨーロッパの近代と日本の開国	☐ 近代ヨーロッパのできごと ☐ 開国後の国内のようす	
1 正・負の数、式の計算	☐ 正・負の数の計算 ☐ 式を簡単にする ☐ かつこをふくんだ式の計算	
2 方程式、連立方程式	☐ 単項式の乗法・除法 ☐ 1次方程式の解き方 ☐ 代入法で解く連立方程式	
3 各領域の基本問題	☐ 分数をふくんだ連立方程式 ☐ 絶対値 ☐ 数量を文字式で表す ☐ 1次関数の式 ☐ 立体の体積	

*5 出題内容表

「一冊やり遂げた!」という手応えが自信の源に

「新研究」には、本冊に直接書き込む形で取り組んでいます。1周目を終えてふり返ったときに、「新研究をやりきった」という達成感を得られることが狙いです。入試直前に見返すと為になる「戻れる一冊」としても位置づけられるよう、しっかり使い込んでほしいという思いがあります。

大学受験でもよく言われるように、「自分はこれをやりきった」という経験は、大きな自信につながります。そうした意味でも、生徒たちにとって「新研究」が、学習の軸になることを願いながら日々取り組んでいます。

アンケートでわかった、生徒たちの変化

生徒たちにアンケートを取ったところ、自分の学習状況に合わせて取り組めることが功を奏したのか、多くの生徒が「毎日コツコツやる」「今まで全然やらなかったけど毎日やる癖がついた」と答えてくれました。その結果として「定期テストに向けての勉強もコツコツ取り組めるようになり、今までよりも点数が上がった」「習慣がついて、勉強以外でもいい影響があった」という声も上がっています。

この取り組みを継続していけば、明るい結果につながるのではないかと期待しています。

私たちが考える、高校全入時代の「学び」とは

「受験突破」だけではない力

入試でしっかり点を取れる力をつけることがまず大切ですが、それだけではなく、応用力や対応力も重要だと感じています。基本問題はできても日常生活への応用でつまずく生徒も多いので、そこをどう伸ばしていくかがポイントです。また、点数だけでなく、学びそのものの価値も大事にしていきたいと思っています。

学びを人のために

試験の点数のためだけでなく、「自分のために学ぶ」という姿勢を大切に育てたいと考えています。身のまわりの疑問から課題を見つけ、自分で考え、行動できるようになってほしい。学年のレクリエーションなど勉強以外の場面でも、自ら企画して人と関わる経験が、生きる力や人間力につながるはず。将来そういった力で世界を広げていけるように、と願っています。



社会で生きるための力

私は勉強が得意な方ではないので、苦手な生徒の気持ちはよくわかります。ですが、現実には受験が行われる中で、行きたい高校に行ける力をつけることは大切です。ただ、学びはそれだけではありません。将来「やっておいてよかった」と思える経験や、人との関わりの中で得られることも含めて、大事にしてほしいと思っています。

自分から見つけにいき、協力して走る

誰かから一方的に教わるだけでなく、自分が興味をもって見つけにいった学びの方が、自然と身についている実感があります。また、高校全入時代を控えて、受験は、競い合う“競争”ではなく、協力し合って走る“協走”に近づいていると捉えています。

「育っていく」プロセス

これからの時代は、高校に入ることよりも、その後どう学び続けるかが大切になると感じています。ただ知識を詰め込むのではなく、「どうやってできるようになるか」と自分で考え、工夫して乗り越えていくことが、本当の学びではないかと思います。「新研究」も、自分に必要な学びを自分で見つけて主体的に進める教材として期待しています。

教材活用と「働き方改革」の その先へ

今後は、実力テストの個人成績票を活用し、3年間の学びの軌跡を可視化していきます。最終的には、生徒一人ひとりの状況に合わせた指導の実現を目指しています。

最近「働き方改革」の流れもあって、教員の負担軽減のために、宿題や教材を減らす学校も増えてきています。確かにそれによって教員の負担は軽く

なります。

しかし、私たちは教員である以上、一番大事にすべきは生徒たちの学力の向上です。そこはやはり考えなければいけません。だからこそ、進学教材のような根幹部分は削れません。そこはぶれずに大切にしようというのが、御津中学校の考え方です。

生徒の学習習慣の確立、基礎学力の定着、そして未来を切り拓くための「学び」の土台作り。「新研究」に支えてもらいながら、それらを着実に実現していきたいと考えています。